

「帰国・外国人児童生徒と共に進める教育の国際化推進地域」最終報告書

1 帰国・外国人児童生徒と共に進める教育の国際化推進地域の概要

平成14年9月1日現在の推進地域内の以下の児童生徒数

	公立小学校		公立中学校		計	
	人数	校数	人数	校数	人数	校数
ア 海外帰国児童生徒（海外に1年以上在留）在籍数	1	1	0	0	1	1
イ 中国等帰国児童生徒数	0	0	0	0	0	0
ウ 日本語指導が必要な外国人児童生徒数	77	5	36	3	113	8

国籍別の在籍児童生徒数（日本語の指導が必要な者のみ 平成14・15年1月7日現在）

国名		ブラジル	ペルー	中国	ボリビア	カンボジア	パラグアイ	インド	合計
平成13年度	小学校	61	19	2	5	2			89
	中学校	17	3		3	2			25
	計	78	22	2	8	4			114
平成14年度	小学校	46	22	2	6			1	77
	中学校	17	7		1	4	1		30
	計	63	29	2	7	4	1	1	107

日本語指導が必要な外国人児童生徒の母語別人数（平成14・15年1月7日現在）

		ポルトガル語	スペイン語	中国語	クメール語	合計
平成13年度	小学校	61	24	2	2	89
	中学校	16	7	0	2	25
	計	77	31	2	4	114
平成14年度	小学校	46	29	2	0	77
	中学校	18	8	0	4	30
	計	64	37	2	4	107

在籍期間別児童生徒数（日本語の指導が必要な者のみ 平成13・14年9月1日現在）

		6ヶ月未満	6ヶ月以上 1年未満	1年以上 2年未満	2年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上	合計
平成13年度	小学校	35	13	27	28				103
	中学校	6	3	5	16（2年以上で調査）				30
	計	41	16	32	44				133
平成14年度	小学校	23	10	19	13	7	5	0	77
	中学校	3	3	6	7	6	8	3	36
	計	26	13	23	20	13	13	3	113

推進地域の特色

長浜市内には、日系南米人を対象とした人材派遣会社等があり、近年、多くの外国人が在住し、外国人と接することが日常的になってきている。現在、主にブラジル、ペルー、ボリビアからの

外国人児童生徒が市内小中学校に100名以上在籍し、今後も転出入の増加が予想される。

本市では、従前より国際文化交流都市を目指し、「外国人の快適市民生活支援事業」や長浜市国際交流協会等による市民交流事業、ポルトガル語版広報誌の発行を行っている。また、教育の分野においては、外国人児童生徒の在籍が急増する以前から、諸外国の人々とのふれあいを中心とした国際理解教育の推進に積極的に努めてきた。その結果として、市内の小中学校では外国人生徒（ブラジル人）が生徒会長に選出され、国際理解教育の推進の成果が浸透しつつある。

一方、平成13年度から、国際理解教育の一環として「小学校英語活動等推進事業」を全小学校で実施している。

帰国・外国人児童生徒の実態（学校生活への適応状況、日本語能力の程度等）

外国人児童生徒の在日期間等多様で、日本の生活習慣（ルール、マナー等）の知識、理解度等には大きな個人差が見られる。また、外国人児童生徒の保護者の状況も様々である。とりわけ、平成11年度より転出入が激しいために長期的な指導が難しい状況である。さらに、日本語能力等諸般の事情から教育的配慮が必要な場合を考慮し様々な対応を行っているが、本市のように年度途中における転出入する児童生徒が多いことから、個に応じた指導が大変困難な状況が生じているところもある。

2 帰国・外国人児童生徒と共に進める教育の国際化推進地域センター校の概要

学校名、校長名、所在地、学校規模、電話番号、FAX番号、ホームページ、交通

学 校 名	長浜市立北郷里小学校	長浜市立東中学校
校 長 名	箕 浦 捨 夫	小 倉 昭 憲
所 在 地	〒526-0842 滋賀県長浜市春近町353	〒526-0813 滋賀県長浜市堀部町763
学 校 規 模	学級数13 児童数299	学級数12 生徒数357
電 話 番 号	0749-62-0782	0749-62-0928
F A X 番 号	0749-63-9917	0749-63-9914
ホームページ	http://www.biwa.ne.jp/~kitagon	http://www.biwa.ne.jp/~nagat-jh
交 通 等	(JR 北陸線)長浜駅 (バス)長浜駅発石田上坂行、 北郷里公民館前	(JR 北陸線)長浜駅 (バス)長浜駅発石田・上坂 行、東中前

センター校への通級児童生徒数

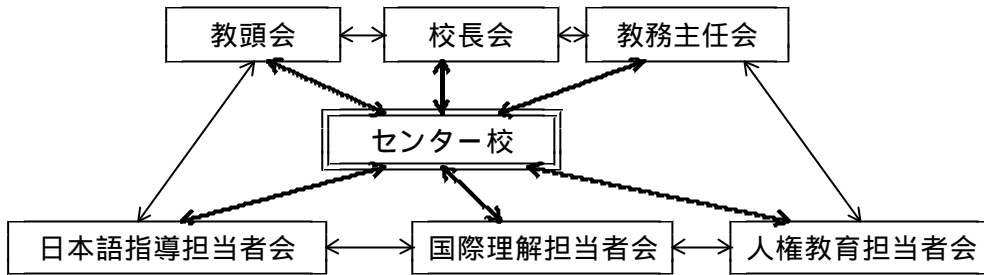
	児 童	生 徒
ポルトガル語	16	8
カンボジア語	0	4

センター校での指導時間及び指導内容

	国際交流指導 (TT)	計画立案等 実務時間	教科指導	特別活動	合 計
北郷里小学校	10時間	3時間	9時間	1時間	23時間
東中学校	9時間	3時間	9時間		21時間

- ・国際交流推進TTとして各学級に入り交流指導に当たることで、子どもたちがお互いを理解しあい、明るい気持ちで生活や学習ができるように指導援助を行う。

センター校を中心とする帰国・外国人児童生徒指導協力体制について



3 帰国・外国人児童生徒と共に進める教育の国際化推進体制の整備

教育国際化推進連絡協議会の概要

ア 活動状況

毎月1回実践活動に応じた小委員会小中連携会議を行った。また、各校の状況に合わせて各校教頭及び生徒指導主任、主事の参加も求め、自校での取組や現状把握等を綿密に行い、小中学校の縦の連携を重視した教育活動の推進を行った。

イ 協議会設置の効果

外国の子どもの実態等を情報交換する中で、各校での課題が明確になり、目指す子ども像が共有できた。実態に応じた学習面、生活面での適応指導及び日本語の指導に生かしている。

加配教員の活用状況

帰国・外国人児童生徒と共に進める教育の国際化推進地域事業にかかる企画運営帰国・外国人児童生徒と共に進める教育の国際化推進地域事業全体に係る企画経営を行う。

学級での加配教員としての国際交流指導

毎日の学校生活そのものが国際交流の場であると考え、日本の子どもが外国のことを学習したりして、お互いの文化に慣れ親しむ場を取り入れている。さらに、加配教員として、国際交流推進TTとして各学級に入り交流指導に当たっている。

地域との連携と共に活躍する場の創造

地域と連携しながら活動を行うとともに、日本の子どもと外国の子どもが共に活躍する場の設定と活動の充実を図るための計画の立案及び実践を行った。

小中の連携

毎月1回実践活動に応じた小委員会小中連携会議の開催

教育相談員のねらい

学校や地域での生活への不適應や言葉が通じないことなどから、学級で孤立傾向にある児童生徒に対し、母語によるカウンセリングを行うことで、心の支えとなることを目指している。

4 平成14年度の具体的な取組内容とその成果等について

研究主題

外国人児童生徒に対応して教育指導のあり方及び彼らと日本人児童生徒の国際性の基礎を培う指導方法にかかる実践研究の推進

主に、日本語指導が必要な外国人児童生徒を実践研究の中心に据える

- ・小中学校の縦の連携を重視した教育活動の推進を中核におく。
- ・家庭、地域社会と一体となった教育活動の推進を工夫する。

生徒指導の機能を生かした全ての教育活動を基盤にして、国際理解教育、外国人児童生徒育及び人権教育の側面から教育活動の充実を図る。

研究主題に関連した活動及びその成果

- ・外国人児童生徒に係る本市教育課題の明確化、具現化
- ・年間研究計画の作成
- ・地域人材の開発、確保と外国人児童生徒の受入や適応指導のための支援体制の強化
- ・個に応じた日本語指導のための教材開発

近年新しく外国より来日する子どもが急激に増えてきて、外国の子ども同士で行動する機会が増え、各々が日本の生活に不安を感じることは少なくなっている。

しかし、子どもたち自身が日本に慣れようとしたり、日本語を学習しようとする事への意欲を低下させることにもなっている。そのため、日本語指導の充実と、子どもが安定して日本で生活をしていくためには、個に応じた指導が必要不可欠である。

推進地域としての取組及びその成果

- ・小中学校の連携を踏まえた学級及び学年・全校における相互交流活動の実施と研究協議
- ・相互交流を通じた国際理解教育の指導計画の見直し
- ・個に応じた日本語指導のための教材集及びカリキュラムの見直し

外国人児童生徒と日本人児童生徒がともに力を合わせた充実した学校生活が過ごせるように指導支援をしていくと共に、お互いの国の文化や生活習慣を理解し、お互いの人格やよさを認め合い、共に生活していける場であることを第一と考えながら、外国の子どもたちが恥ずかしがらずに活動したり、楽しく話したりできる場づくり(ライブラリー等)を大切にしている。

ア 学年学級で進める国際理解教育

2年 生活科 「外国の人とおともだち」

ブラジルの友だちや外国の方と歌やダンス、ゲームなどを通して、楽しく活動する。

4年 総合的な学習 「友だちの国を知ろう」

身近な友だちの国ブラジルについて、自分なりの課題を持ち、調べ追究する。調べたブラジルの国について、多くの人に知らせることにより日本とブラジルお互いのよさを認め、自分たちの生活を振り返らせた。

イ 人権タイムを通しての国際理解教育

毎月1回行っている人権タイムにおいて国際理解教育を取り上げ、ブラジルの子どもの日本語教室での活動のようすを知らせたりして、お互いを尊重し合い助け合っていこうとする態度の育成を図った。

また、今年度、学級活動の一環として、日本人生徒と長浜市在住の外国籍の人たちとの交流を図る計画を立て、日系ブラジル人が在籍する学区内の保育園の誕生会に参加し交流活動を行

ったり、共同ボランティア活動として「書き損じはがき回収運動」を通して、海外で文房具が不足している国へ送るなどの取組から生徒の意識関心を高めるように努める。

帰国 外国人児童生徒とその他の児童生徒の相互啓発の観点による取組及びその成果

日本人も外国人も共に生きるような手だてを取ってお互いに切磋琢磨していける場を設けた。子どもの主体性を生かした運動会を進めるために外国人児童を含んだ運動会実行委員会を組織して、運動会を進めてきた。その中で、運動会のきまりや安全の約束を開会式に発表するときに、日本語、ポルトガル語の二カ国語で放送するなどし、外国人の活躍の場も設定した。また、日常の委員会活動としての校内放送、避難訓練のための緊急放送も二カ国語で行っている。

地域と連携した活動(民間企業、地域の人材の活用状況等)及びその成果

長浜市市民国際交流協会等との連携を深め、外国人指導の支援をお願いすると共に、外国人生徒が同協会主催「YOU弁 IN NAGAHAMA」に参加した。

また、日本語指導長浜市民ボランティアグループ「グループひまわり」と連携を図り加配教員とTTで指導し、学校教育と社会教育とが融合した「学社融合」の形式を推進し、「開かれた学校作り」に努めている。

連携した団体等の概要

日本語指導長浜市民ボランティアグループ「グループひまわり」

ながはま楽習塾講師及び参加者・長浜ユネスコ協会日本語教室講師

その他特筆すべき平成14年度の成果と課題

今回の指定で、本事業の趣旨である外国人児童生徒等の個に応じた特色ある教育指導のあり方および外国人児童生徒等とその他の児童生徒との相互啓発を通じた国際理解教育の推進のあり方等について、学校と地域との連携により実践研究を深めることができました。

特に、外国人児童生徒等について、積極的受入れのための体制作り、適応指導、教育相談、日本語指導及び個に応じたきめ細かい教育課程・指導方法等に関する実践研究やボランティア等地域の人材の活用のあり方の調査研究については、大きな成果を得られた。

さらには、「帰国・外国人児童生徒と共に進める教育の国際化推進地域」の実践研究を通し、国際理解教育は、外国人児童生徒を含めたすべての子どもたちの、相互啓発による国際社会に向けた自己変革をめざす国際化教育であると考えている。それはまた、教科道徳等の学習や多様な価値観、考え方をもち人々との出会いから、自らの生き方を広く深く見直し、お互いに自分の内なる多文化的国際性を培っていく多文化共生をめざす国際化教育ともなっている。

今後も、言葉の壁や不安定な保護者の就労状況など、さまざまな課題があるが、できる限り、日本での生活を充実したものにして、帰国してからの生活にも十分対応していけるような力をつけさせていきたいと考えている。